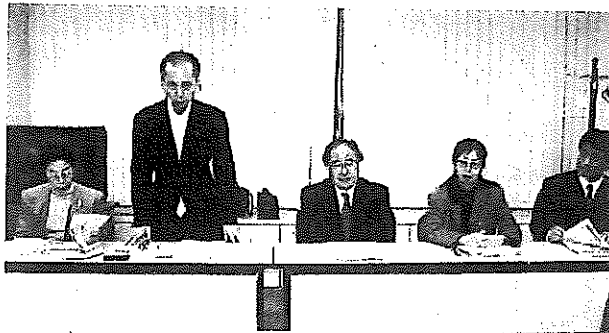


ふくせん

モニタリングシートを開発



モニタリングシートを発表するふくせん首脳陣

全国福祉用具専門相談員協会(ふくせん)、山下一平

「シート」はそれと対をなすもの。シートはA4サイズ

会長は福祉用具の利用後の状況確認、変化をみるためのツールとして「モニタリングシート(試行版)」を開発、3月23日に発表した。同協会は昨年福祉用具の計画的なサービス提供に不可欠なツールとして「福祉用具個別援助計画書・標準様式」を開発。「モニタリングシート」はそれと対をなすもの。シートはA4サイズの大きさで、要介護度などの利用者の基本情報、利用福祉用具と使用状況や点検後の問題の有無などの欄が設けてある。

最大の特長は①身体状況の変化②生活状況の変化③気持ちの変化④家族の状況の変化の4項目について「なし」「改善」「悪化」のチェック欄を設けたこと。さらに満足度や使いにくさ、使用中に困ったことなどを記載するスペースも設けた。

シートの開発にあたった

白澤政和大阪市立大学大学院教授は「個別援助計画書を開発したことで、ケアマネジャーから情報の共有化が進んだという評価を得ている。福祉用具専門相談員は利用者の状況に応じて用具を変え、家族の意見などをケアマネジャーに伝えなければならぬ。モニタリングシートの開発により相談員の役割の全体像を提示できた」と述べ、広く活用されるよう訴えた。

今回開発された「モニタリングシート」は試行版で、今年度テスト的に用い、来年度中に最終バージョンを完成する予定。